

農林水産業・食品産業の現場の 新たな作業安全対策に関する シンポジウム

令和2年3月



日本人が当たり前のようには享受している豊かな食生活は、国内の農林水産業や食品産業に従事する人たちによって支えられている。ただ、機械化やテクノロジーの発達で各産業の発展を促したとはいえ、危険な作業も多く残る現場を支えているのはやはり「人」である。

このため、これまで様々な安全対策が講じられてきたが、それでもなお農業では毎年約300名が亡くなり、林業では事故率が建設業の平均の約5倍に達している。

こうした状況が改善されなければ、これらの分野の労働者の減少、産業の衰退、引いては日本の国としての持続可能性を損なうことにもなりかねない。そこで農林水産省は、これらの分野の作業安全対策を一層推進することとし、3月17日に「農林水産業・食品産業の現場の新たな作業安全対策に関するシンポジウム」を実施した（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、動画収録により実施）。

より安全な産業を目指すには、どのような考え方が求められるのか。同シンポジウムでは、行政、農業機械メーカー、学識経験者からの基調講演に続き、現場の事業者2氏も加わり、農林水産省事務次官の末松氏をファシリテーターとして、5氏により議論が交わされた。

基調講演



1983年農林省入省。2010年林野庁林政部長、2014年関東農政局長、2015年農村振興局長、2016年経済産業省産業技術環境局長等を歴任し、2018年より現職。

農林水産省 農林水産省事務次官 末松 広行氏

農林水産業・食品産業の現場では、就業者の高齢化や多様化、人手不足等の背景がある中で、作業事故が引き続き多発している。農林水産省では、これまでの対策に加え、事故情報の収集・分析の強化、シートベルト装着等の基本的な取組の徹底、スマート技術の活用、安全対策と補助事業等との連携、業種の垣根を超えた機運の醸成等により安全対策を一層推進し、農林水産業・食品産業を若者が未来を託せる産業にしていく。



1977年（株）久保田鉄工（株）（現（株）クボタ）入社。筑波工場長やタイの合併会社であるサイアムクボタコーポレーションの社長などを歴任。2014年に代表取締役社長、2020年より現職。

株式会社クボタ 代表取締役会長 木股 昌俊氏

当社は農業機械メーカーとして、全てのユーザーに安全を届けるため、今春から、農作業安全の呼びかけ活動と併せて、トラクタの転落・転倒時にオペレーターの命を守る安全フレームやシートベルトをユーザーのご負担の少ない形で後付けする活動を実施する。さらに、農作業安全にも寄与する自動運転農機やラジコン草刈り機、ドローン等のスマート農機について、開発・提供を推進していく。



1983年労働省入省。労働基準監督署に勤務後、1987年に労働省産業安全研究所（現（独）労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所）に入所。2019年より現職。主に機械設備の労働災害防止対策に関する研究に従事。

独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所

所長 梅崎 重夫氏

農林水産業・食品産業における作業機械の安全対策をさらに推進するためには、事故の大半を占める典型的な事故事例の抽出とリスク評価、機械安全に関する国際規格（ISO12100）に基づくリスク低減戦略の活用、問題を現場段階に矮小化せず、経営者や上級管理者、機械設計者・製造者等も含めた総合的な安全管理の実施等に取り組むことを提案する。

現場からの報告



2007年に鹿児島県指宿市で就農。2016年JGAP、本年1月にASIAGAPを取得。夫婦とパート15名でキャベツや枝豆等の野菜を中心に、約37haの規模で生産。地域で女性が活躍できる農業を目指している。

大吉農園 大吉 枝美氏

当農場では、GAPにおける労働安全対策の取組として、圃場周辺のリスク評価やヒヤリ・ハット事例の共有等による危険作業の把握、危険な作業における従事者の制限、適切な服装や保護具の着用、作業環境の改善、機械の安全点検と適切な利用、農薬や燃料の適切な管理、事故に備えた保険加入等を行っている。GAPの取組により、経営改善や食品安全の強化だけでなく、農作業安全の推進や従業員の意識改革にもつながっている。



1984年中之条町森林組合入社。平成17年に地域の4組合が合併し設立された吾妻森林組合の総務課長に就任し、安全対策の推進や経営改善に尽力。平成27年より現職。

吾妻森林組合 常勤理事兼参事 吉田 昭雄氏

当組合はかつて経営が悪化し、安全対策においても問題が山積していたが、「安全対策・作業方法・作業効率」や「経営者・事務所・現場」を三位一体で捉え、組織改革や安全衛生教育の実施、安全のルール作り、職員の技術力向上等を進めた結果、職員のモチベーションが向上し、労働災害の抑制だけでなく作業効率向上等の相乗効果も生み、経営も改善した。

パネルディスカッション

安全対策と一時的な生産性の低下、効果は乗り越えた先に – 農林水産省主催のシンポジウム

効果的な対策を講じていくために

末松 農林水産業・食品産業の現場では、未だ多くの事故が発生しています。効果的な対策を講じるためには、まずは今以上に綿密な情報収集と分析を行うことが必要と認識しています。

梅崎 ご指摘の通りです。しかし全ての事故を詳しく調査し、あらゆる状況に対応できる対策を講じるのも、現実的ではないでしょう。

そのため、作業事故の中でも多数を占める典型的な事例を明確化し、最も効果的な対策

を立案して、好事例を水平展開していくことが鍵になると考えます。

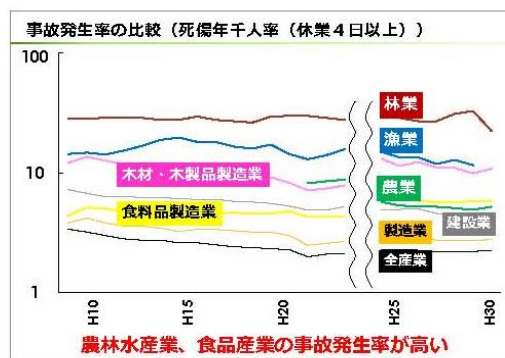


農林水産省 農林水産省事務次官 末松 広行氏

木股 農業機械メーカーとして、トラクタの事故が多いことは承知しており、農業分野における最重要課題と認識しています。このような事故を減らすためには、未装備な古いトラクタへの安全フレームの装着が効果的かつ即効性のあると考え、農機メーカーの責任としてお客様のご負担を最小限にし、当社が相当程度の負担をして、安全フレームを装着する取組を今春から始めることとしました。また、今後開発する新しいトラクタでも、より安全で安価なキャビンを提供するとともに、設計・開発段階でのリスクアセスメントの一層の充実も図ります。

末松 クボタさんでもかなりのご負担をされながら、今ある機械についても対策を進めようという

ことで、素晴らしいことだと思います。事故の分析をしっかりと進めながら、全国の自治体や関係者の協力も得て、有効な取組をできるだけ早く水平展開できるよう、進めて行きたいと思います。



末松氏講演資料より抜粋・一部改変

関係者全員が当事者として安全対策の推進を

大吉 そのような効果的な対策を提示していただければ、現場としては非常にありがたいです。しかし、従来の作業方法に慣れた現場の人たちにとっては、新しい取り組みをすんなりとは受け入れにくいものです。事業者の意識向上や従事者自身の気付き、自主的な取り組みを同時に促していくことが効果的だと思います。

末松 新しい取組を現場に取り入れていただくためには、どのような進め方が有効でしょうか。

大吉 当農場では GAP の取得がその契機になりました。従業員による農場内の危険個所の洗い出しと共有など、従業員自らが気づいて行動に移せるような進め方を取り入れています。また、すべての農業者が取り組むべき基本的な項目をわかりやすく示した、「作業安全規範」といったものを作り、それを日々意識することも有効ではないでしょうか。

さらに、各種の補助事業などにおいて安全対策の取り組みを要件とする、クロスコンプライアンスを進めていってはどうか。

吉田 対策を根付かせるためには、現場だけでなく、経営全体で一体感を持つことが必要です。当組合では、経営者や事務所職員も含めて共通の研修を実施しています。

末松 そのような素晴らしい事例があることを、ぜひ全国の皆様にお伝えしていきたいと思います。

クロスコンプライアンスについては、安全研



大吉農園 大吉 枝美氏

修の実施や、過去の災害抑制実績を要件にするなど、安全対策にしっかり取り組む経営が支援を受けることができ、より良い結果を生むような形にしていきたいと思います。

木股 安全対策については、大勢の人に一度に指導することでは、徹底はなかなか難しいと考えています。当社では全国の販売店のセールスマン一人一人が、お客様を訪問したときに作業の状態を見させていただき、例えば正常にシートベルトをしているか、またシートベルトをしていないときはこういうリスクが

ありますよということを、ていねいに何度も繰り返し説明することが一番大事だと思って取り組んでいます。



株式会社クボタ 代表取締役会長 木股 昌俊氏

安全対策と生産性の低下、本当の効果はそれを乗り越えた先に

末松 一方で、安全対策を実施すると、コストの上昇や作業効率の低下などにより、経営に影響をおよぼす恐れもあるのではないかと思います。いかがでしょうか。

吉田 当組合では、初心に帰り刈払機の刃の目立てからスタートしました。作業者が作業方法を共有することも大切です。常に技術を磨いていくことが重要になります。その結果、事故が抑制できることに繋がります。

梅崎 安全と経営は、いわば車の両輪です。安全対策と経営改善の好循環で、両面から改善していくことが好ましいと考えます。安全対策を講じると最初は生産性が落ちるのは事実です。しかしそこで諦めず、立ち止まって問題の原因や改善方法を考えて対策すると、ある時点から急に生産性が上がり始めます。そこまで頑張れるかどうかのポイントです。

末松 大変貴重なお話を伺いました。また、安全対策と経営の両立については、技術の面でも新しい動きが出てきています。

木股 スマート農業については、生産性向上や経営発展のほか、危険な作業からの解放による安全への寄与という意味もあり、積極的に推進すべきと考えています。当社でも、安全なロボット農機の開発・製造を通じて、スマート農業の推進に取り組んで参ります。

梅崎 日本農業の国際競争力を高めていく意味でも、スマート化は重要だと思います。他方、たとえばガードをきっちり付けるなど、現場で今まで大事にしてきた対策を当たり前のよう



独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所 所長 梅崎 重夫氏

ヒヤリ・ハット事例の共有や基本的な技術が重要

大吉 現場での基本的な対策の徹底ははとて重要です。自分の経験から、ヒヤリ・ハット事例の共有が一番大事だと感じています。小さな



西農森林組合 常勤理事兼参事 吉田 昭雄氏

事故やケガの情報も共有していくことができれば、事故の未然防止につながると思います。また、そうした情報共有の面でも、GAPにおける農作業安全のルールは非常に良くできていると思います。全国の皆様に、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

吉田 当組合では、初心に帰るために刃物を研ぐことから始めました。また、作業者が作業工程を共有することも大切で、そのため技術を磨いていくことも重要です。それによって事故が抑制できました。

関係者全員の力で作業事故を削減へ

末松 本日のお話を踏まえ、行政としても、事故情報の収集と分析をしっかり行い、対策を検討してしっかり実行していきたいと思っています。また、「安全だからこそ経営も良くなる」という流れを業界のなかでつくっていくことも重要だと思っています。

全国の関係者の皆様のご協力を得て、農林水産業・食品産業を、現場の皆様が健康で元気に働くことができ、若者が未来を託すことができる産業にしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

農林水産省における今後の取組強化に向けて

- ・ **事故情報の収集・分析を強化**し、それに基づく適確な対策を構築
- ・ **基本的な安全対策**の実施を徹底
- ・ 進展著しい**スマート技術**を安全対策においても活用
- ・ 安全対策と補助事業等との連携をさらに強化することにより、**安全対策に積極的に取り組む経営を育成**
- ・ 業種の垣根を超えた取組の推進により、関係者の安全対策にかかる**機運を醸成**

末松氏講演資料より抜粋・一部改変



当日の動画はこちら



https://www.maff.go.jp/j/kanbo/sagyou_anzen.html